

科目名	債権管理法務	
担当者	笹邊 将甫 / SASABE, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	取引の実務においては、多種多様な紛争が生じ得ると同時に、債権管理・債権回収のためにも様々な方法があり得ます。 本講義では、そのような取引の実務において生じ得る紛争に対する処理方法を学んでいきます。紛争処理法務では、紛争の解決システムである「民事訴訟(判決手続)」の基本的事項を扱い、債権管理法務では、実際に生じた債権を確実に回収する方法である「債権回収」を扱います。いずれの講義も密接に関連する講義ですので、セットで受講することをお勧めします。 なお、科目の特性上、民法の他、民事訴訟法、民事執行法、民事保全法、破産法等にも関連・言及します。
	到達目標	民法に規定される債権回収システムの基本的事項に関する知識を獲得するとともに、手続法に規定される債権回収の方法を学ぶ。
授業計画	(1) ガイダンス(授業内容・授業方針・成績評価基準)及び債権回収システムの概略 (2) 弁済による債権の実現——弁済に関わる諸問題(33-108頁) (3) 債務不履行——債務不履行に関わる諸問題(109-189頁) (4) 代物弁済・債権譲渡——代物弁済の機能・債権譲渡の機能と諸問題(199-245頁) (5) 相殺——相殺の機能と効力・相殺の制限・相殺の諸問題(247-272頁) (6) 責任財産の保全①——債権者代位権(273-296頁) (7) 責任財産の保全②——債権者取消権(296-331頁) (8) 人的担保——保証(333-365頁) (9) 物的担保①——抵当権Ⅰ(383-456頁) (10) 物的担保②——抵当権Ⅱ(456-486頁) (11) 物的担保③——質権(487-500頁) (12) 物的担保④——留置権・先取特権(501-518頁) (13) 非典型担保①——譲渡担保・売渡担保(519-547頁) (14) 非典型担保②——仮登記担保・所有権留保(548-560頁) (15) 総まとめ(予備日)	
自学自習	事前学習	上記の授業計画には、その回の講義で扱う部分の教科書の該当頁を示しています。受講者には、該当頁を予め読んでくることを希望します。 また、参考書として挙げている文献の該当箇所にも目を通して下さい。
	事後学習	Moodle上で実施される小テストを毎回受験して、講義内容を復習しておいて下さい。任意提出のレポートを課す予定です。
使用教材・参考文献	【教】内田貴『民法Ⅲ〔第3版〕』(東京大学出版会、2005) ISBN:978-4-13-032333-4 【参】森田修『債権回収法講義〔第2版〕』(有斐閣、2011) ISBN:978-4-641-13600-7 【参】小林秀之『事例から学ぶ 債権回収法』(法学書院、2010) ISBN:978-4-587-03950-9 ※その他の文献は講義中に適宜紹介する予定です。 <b>なお、講義には、Moodle上で配布されるレジュメを各自で印刷して、毎回持参すること。</b>	
成績評価方法と基準	<方法> 小テストの結果(30%)、筆記試験の結果(70%)を総合評価します。 <基準> 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 ※詳細については、初回のガイダンス時に説明します。	
備考	◆六法を毎回持参して下さい。◆小テストやレジュメの配布には、Moodleを利用します。 ◆民事執行法Ⅰ・Ⅱ、倒産処理法を併せて履修すると深く学習できます。 <b>初回のガイダンスには必ず出席すること。重要な点について説明を行います。</b>	